

## 2018（平成30）年度 清教学園中・高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」という建学の精神のもと、「一人ひとりの賜物を生かす」ことのできる質の高い人間教育を行うことを目指す。

清教学園の目指す人間像

- ①神を信じ誠実に仕える
- ②真理を学び賜物を生かす
- ③隣人と共に平和を築く

### 2 中期的目標：

教育の質的向上 ～清教「らしさ」・清教メソッドの確立、および運営の質的向上～

#### 1 教育の質的向上

- (1) 学力伸張を図る
- (2) 社会自立・自己実現に向けた夢を育て、志を形成する
- (3) 高い倫理観と Servant Leadership を育成する \*Servant Leadership：「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後、相手を導くものである」という考え

#### 2 生徒における学校生活の充実

- (1) 特別活動の充実
- (2) 生徒指導の充実
- (3) 生徒支援

#### 3 環境整備力の向上

- (1) 施設の充実
- (2) 外部環境への対応
- (3) 情報の共有化と発信力の促進

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [2018年11月・12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>&lt;評価結果の高かった項目&gt;</p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は充実した学校生活を送っている (中学生：96.0%、高校生：81.9%)</li> <li>・学力向上につながる授業が多い (中学生：93.6%、高校生：82.3%)</li> <li>・宗教・人権教育が重視されている (中学生：96.0%、高校生：83.0%)</li> <li>・姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実している (中学生：96.0%、高校生：90.9%)</li> <li>・電子黒板や書画カメラは学習理解を深める (中学生：93.6%、高校生：85.0%)</li> <li>・熱心に指導してくれる先生が多い (中学生：92.8%、高校生：85.6%)</li> <li>・家庭への連絡は適切に行われている (中学生：94.4%、高校生：81.7%)</li> </ul> <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は学ぶことに誇りを持っている (中学保護者：90.9%、高校保護者：90.4%)</li> <li>・規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がなされている (中学保護者：90.1%、高校保護者：94.5%)</li> <li>・姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実している (中学保護者：97.6%、高校保護者：93.6%)</li> <li>・熱心に指導してくれる先生が多い (中学保護者：93.4%、高校保護者：93.5%)</li> <li>・PTA活動が盛んである (中学保護者：98.4%、高校保護者：94.4%)</li> </ul> <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は充実した学校生活を送っている。(100%) など</li> </ul> <p>&lt;評価結果の比較的低かった項目&gt;</p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動は勉強の時間が確保できるように配慮されている (中学生：70.4%、高校生：55.1%)</li> </ul> <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の授業で十分な学力がつく (中学保護者：54.5%、高校保護者：67.0%)</li> </ul>	<p>学校法人清教学園評議員会をもって学校関係者評価委員会とする。なお、評議員の選定は、寄附行為に基づき、学識経験者、学園卒業生、および学園教職員の3つの枠を設けた上で行われている。</p> <p>2018（平成30）年度については、2019（平成31）年3月30日に学校関係者評価委員会を開催した。</p> <p>&lt;意見&gt;</p> <p>【学識経験者】</p> <p>○評価者間で同方向の評価結果となっている事項についてよりも、むしろ逆の評価結果になった事項については留意が必要である。回答結果の方向性が同じ事項については、その結果を踏まえた改善を進めれば良い。たとえば、勉学と部活動とのバランスに関する事項については、部活動ガイドライン策定後の改善結果が待たれるところである。他方、回答傾向が逆方向である事項については、改めて課題内容の精査・検討を行い、丁寧に改善の取り組みを進める必要がある。たとえば、学力育成に関する事項、学校の様子を知っていただくための情報発信・公開に関する事項については、まず課題の再整理を進められたい。</p> <p>○教員側において自己評価が高くはなかった事項についても、具体的な検討を要すると考えられる。たとえば、教員においては、学園をお勧めしたい積極的な動機に関して、生徒や保護者における高い評価結果との齟齬がなぜ生じているのか。学校運営のさらなる円滑化のために関連状況の確認を真摯に行われたい。</p> <p>○施設・設備に関する満足度をさらに求めていくことも継続されたい。当該事項に関するこれまでの評価結果を踏まえ、ここ数年、改修・美化・機能向上等の手入りを順次進めてきたことの成果は、今回の評価結果からも認められるところであり、関連施策についての今後の検討に向けて良い促しをいただいたと言える。</p> <p>【学園卒業生】</p> <p>○学校評価制度も定着化してきた。各事項に関するデータも蓄積され、これからは時系列的なふりかえりも行い、さらなる改善を進めることにつなげてほしい。継続して評価が高くない事項については改善計画を改めて立案し、その計画の履行を経て再度評価を受けるといった形に進めるべきであろう。また好転した場合は、その要因を明確にすることにこれまで以上に努めれば、今後の学園運営に活かすことができるのではないかと。</p> <p>○学園の教育活動上で大切にしてきた事柄で、かつ継続して高い評価をいただいている事項については、その強みをもっと強くするという考え方が必要ではないか。たとえば、建学理念に基づくキリスト教主義教育の実践のもと、生徒たちが充実した学校生活を送っていると答えてくれているということは、学園の誇るべき教育成果だと言える。中高</p>

<p>&lt;全体総括&gt; グローバル教育に関するプログラムが充実し、全学的な取り組みとして軌道に乗りつつあり満足度も高い。他の私学に比較しても本校の魅力として発信できる優先順位の高い項目と考えて良い。部活動の活動時間に関する配慮は、新たな本校のガイドラインの導入を始めるので、その効果に期待したい。学力保証に関しては満足している保護者が減少している。教科研修の充実など提案したい。</p>	<p>に関する社会一般での慣例的指標にただ制約されたような形ではなく、さらに学園らしいあり方というものを求めるのも素晴らしいことではないか。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育の質的向上	<p>(1) 学園の教育理念への十分な理解に基づく学業生活の推進</p> <p>(2) 学力向上をもたらす学習指導の工夫、および生徒の自主的な学習姿勢の育成</p>	<p>ア. 礼拝への積極的な参加を促すことをはじめ、こころの教育のさらなる充実を図り、宗教・人権教育が重要視されていることが十分に理解されるように努める。</p> <p>イ. バランスの取れた教育活動を通じて、生徒の自律・自立を促し、自己肯定感を高める取り組みを推進する。</p> <p>ウ. グローバルリーダー育成のプログラムをさらに積極化・多様化させ、生徒において国際交流活動が身近なものだとさらに認識されるように図る。</p> <p>エ. ICT等の積極的な活用をはじめ、生徒における授業内容の理解を促すような工夫を継続する。</p>	<p>学校評価アンケートにおける結果を分析することを通じて評価するのを基本とする。</p> <p>ア. 建学の精神に関する理解、および宗教・人権教育が重要視されているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても80%以上 (前年度→前者については生徒：中 86.7%、高 74.7%、保護者：中 86.5%、高 91.4%、教員：78.7%、また、後者については生徒：中 87.4%、高 86.8%、保護者：中 95.5%、高 91.4%、教員：80.8%)</p> <p>イ. 生徒が充実した学園生活を送っているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 93.1%、高 87.1%、保護者：中 92.5%、高 94.5%、教員：97.9%)</p> <p>ウ. 姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実しているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 94.9%、高 89.2%、保護者：中 97.0%、高 92.5%、教員：100%)</p> <p>エ. 学力向上につながる授業が多い(主要5教科平均)および電子黒板・書画カメラ・私物情報端末の学習効果に関する評価結果がどの生徒においても80%以上 (前年度→生徒：中 88.4%、高 82.1%)</p>	<p>建学の精神の理解については、中学生(88.0%)及び中高保護者(中 88.4%、高 88.1%)の評価が80%を越えている。教員(73.2%)、高校生(74.6%)については80%に及ばなかった。前年度と全く同じ傾向である。学園の教育方針に触れる機会を増やす必要がある。また、宗教・人権教育については、教員(76.4%)を除く全ての評価対象枠において80%を越えている(生徒：中 96.0%、高 83.0%、保護者：中 98.3%、高 90.8%)。昨年度においては教員も80%を越えていたため、要因を探る必要がある。(△)</p> <p>中学生 96.0%、高校生 81.9%、中学保護者 90.9%、高校保護者 90.0%、教員 100%と、前年度に引き続き全ての評価対象枠において80%以上の好評価が達成された。賜物を生かすことを念頭に、それぞれの生徒に対する丁寧な指導を引き続き行っていきたい。(○)</p> <p>中学生 96.0%、高校生 90.9%、中学保護者 97.6%、高校保護者 93.6%、教員 100%と、全ての評価対象枠において90%以上の好評価が達成された。短期・長期の留学生の受け入れ、多様な海外研修や留学制度の充実など、尽力している取り組みが実を結んでいると言える。(○)</p> <p>中学生は前年度から大幅に上昇し、全体平均で93.6%という評価結果であった。5教科全て90%以上で、数学・社会は95%以上であった。非常に高い数値と言える。高校生は前年度とほぼ同じ、82.2%であった。数学・理科・社会は80%台であったものの、国語・英語は70%台であった。昨年度に比べ、英語の評価結果が低下しており、国語・英語に関してはさらなる研鑽が必要である。授業形態としては「主体的、対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」が定着しつつある。これを今後も発展・継続させつつ、満足度向上に努めてゆきたい。電子黒板の効果について中学生は93.6%と高評価で、昨年度の88.5%より上昇した。高校で昨年度より導入した私物情報端末について高1は73.1%と昨年同様今ひとつの評価であった。高2においては66.5%と昨年度の高1段階からさらに低下している。まだまだ導入後の産みの苦しみの段階であるが、今後一層の活用拡大を通じて満足度向上を図りたい。(△)</p>

1 教育の質的向上	(3) キャリア教育の拡充を含む進路指導の充実化	<p>オ. 個々の生徒における学習到達状況を把握し、各人の学習意欲を受けとめられるような丁寧な指導に努める。</p>	<p>オ. 「塾・予備校に行かなくても学校の勉強で十分な学力がつく」・「理解が不十分なときに面倒をよく見してくれる」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中80.0%、高75.4%、保護者：中66.2%、高69.2%)</p>	<p>中学生は81.2%と昨年度の80.0%とほぼ同じであった。高校生は72.8%と昨年度の75.4%より低下し、80%には遠く及ばない。この観点では保護者の評価はさらに低く、中学保護者61.6%、高校保護者71.4%にとどまっている。この項目の評価回復は緊急の課題であると言える。理解が不十分な生徒に対してのフォローの方法に関しては、従来とは異なる取り組みが求められていると感じる。高校では、私物情報端末導入にともない、弱点補強や学び直し、先取り学習などのためのWEB教材を導入した。授業や補講・追試などに加えてこのプログラムを活用することで、この項目の改善を図りたい。(△)</p>
		<p>カ. 生徒の自主的な学習姿勢および課題発見・解決力を育成するために図書館教育の機能をさらに有効化させる。</p>	<p>カ. 「図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：87.4%、高78.1%、保護者：中95.5%、高90.4%)</p>	<p>本校図書館「リブラリア」の積極的な取り組みが中学生に対しては成果を上げており、昨年は87.4%とやや低評価であったが、今年は92.8%と上昇した。一方、高校は図書館から離れているという不利な面もあるが、昨年の78.1%から今年69.7%と大幅に低下したことは問題である。高校生に対する継続的な取り組みが必要である。(△)</p>
		<p>キ. 将来つきたい職業のイメージを喚起できるような機会を増やし、進路に関して明確な夢・目標が持てる指導を図る。</p>	<p>キ. 「将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている」「将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている」「進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中79.5%、高82.4%、保護者：中81.2%、高85.9%)</p>	<p>中学生では昨年度79.5%から今年度82.1%と上昇し、80%を上回ることができた。低学年からの進路への意識付けが少しずつ実践できてきていると言える。高校生では昨年度の82.4%から今年度は80.4%へとやや下降した。卒業生進路講演会、大学の出張講義、大学見学ツアー、夢ナビライブなど、進路意識向上のための行事は数多く実施している。今後は、私物情報端末を活用した新しい取り組みを行うこと、そして一人一人の生徒に寄り添ったきめ細やかな指導を行うことをより徹底していきたい。(△)</p>

2 生徒における学校生活の充実	(1) リーダーシップの育成にも資する特別活動の充実化	<p>ア. 生徒が主体となって参加・運営する学校行事のあり方を追求していく。</p> <p>イ. 勉学と課外活動の両立を謳う本校においてはとくに、両者のバランスがきちんと確立されているということが求められており、学内外の関係者において納得してもらえる状況を作っていくのが重要である。</p>	<p>ア. 「学校行事は生徒が積極的に参加できるように工夫されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても 80%以上 (前年度→生徒：中 93.1%、高 77.1%、保護者：中 96.2%、高 87.9%、教員：97.9%)</p> <p>イ. 「部活動は勉強時間が確保できるように配慮されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても 80%以上 (前年度→生徒：中 71.8%、高 57.5%、保護者：中 74.4%高 65.7%、教員 51.1%)</p>	<p>特に保護者からは 90%前後の高い評価を得たが、高校生については、約 3 割の生徒は課題があると感じている (29.4%)。文化祭の実施については検討を開始し、次年度から準備を開始する予定であるが、その他の行事にも多様性を施す工夫を検討したい。(△)</p> <p>前年度に引き続き、評価は高くなかった。(いずれも 80%未満)。多くの関係者がさらなる配慮を求めていることは明らかである。次年度より施行される本校のガイドラインに則った、新しい時代にふさわしい「文武両道」を、けじめを大切にしながら、部活動の成果と学習面における指導との両輪が揃う方法を、さらに模索しなければならない。(△)</p>
	(2) 社会性の高まるような生徒指導の充実化	<p>ウ. 規則遵守の促進、美化意識の向上、いじめのない学校作りへの取り組みを通じて、学校生活における基本的環境を整えられるように図る。</p>	<p>ウ. 「規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされているか」・「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」・「生徒が問題行動を起こしたときにきちんと対応している」に関する評価結果の平均値がすべての評価対象者枠において 80%以上 (前年度(平均値)→生徒：中 88.9%、高 82.5%、保護者：中 89.7%、高 90.1% 教員 84.6%)</p>	<p>前年度に引き続き、高校保護者・教職員から高い評価を得ている(いずれも 90%超え)。高校生も 80%を超える評価となり、生徒の高い意識がうかがえるが、中学生の評価が低下した(79.7%)ことが問題である。特に「いじめや暴力のない…」の評価が低く(72.0%)、HRやデイリーノートなどを通して、生徒の日々の様子を注視し、指導することが大切である。(△)</p>
	(3) 生徒が安心して学校生活がおくれるような生徒支援の推進	<p>エ. 学校生活の基盤たる健康の促進を図るべく、生徒における健康意識の醸成に努める。</p> <p>オ. 生徒のメンタルヘルスの維持のため、親身になって対応にあたるように努める。それにあたっては、専門家との連携も進め、カウンセリングマインドの醸成をさらに図りたい。</p>	<p>エ. 「保健教育を通して健康管理の大切さについて意識を高める指導がされているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても 80%以上 (前年度→生徒：中 80.5 高 78.4%、保護者：中 86.5%、高 86.8%、教員：85.1%)</p> <p>オ. 「悩みや相談に親身になってくれる教員がいるか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても 80%以上(前年度→生徒：中 71.9%、高 72.3%、保護者：中 82.7%、高 84.4%、教員 95.8%)</p>	<p>前年度に引き続き、高校生を除いては全ての評価対象者枠において 80%超の高い評価となっている。特別号を含めると年間 15 回ほどの「保健だより」の発行や生徒や保護者への丁寧な対応などが効果的であったと考える。唯一、80%に達していないのが高校生になる。高校生向けの配布物などの発行や保健体育科とタイアップして「まなBOX」の活用など検討されたい。(△)</p> <p>保護者における評価(中学 79.4%、高校 85.8%)、生徒における評価は(中学 76.0%、高校 74.2%)。中高とも、生徒の評価が上がった。学年別で見れば中 3(68 期)は昨年の 64.1%から 80.0%へと大幅に改善が見られた。地道な対応の結果と思われる。高 2(50 期)の 69.0%は受験期を控えて懸念される事項である。昨年同様教員の自己評価(100.0%)との乖離が見られる。教員が思っているほど生徒に親身になっていないようだ。スキルアップが必要である。(△)</p>

3 環境 整備 力の 向上	(1) 施設の充実	ア. 自習室の環境をより良いものとし、生徒たちが自学自習の習慣を身につけられるように図る。	ア. 「自習室は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中62.1%、高76.3%、保護者：中80.4%、高81.3%、教員82.9%)	中学生の改善が大きい。(62.1%→85.6%) ラーニングコモンズ(LC)の運用が軌道に乗り、良好な状態が保たれている。高校生の悪化が大きい。(76.3%→64.0)特に高1・2の低下が大きく、部活動前後で利用していた食堂の自習室の閉鎖が不満であったようだ。コメントでも散見される。ただ、自習室としての体は為されていない現状であったので閉鎖は妥当と考える。(△)
		イ. 利用しやすい食堂となるように改善を進める。	イ. 「食堂は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 *高校のみ (前年度→生徒：高69.7%、保護者：高66.7%、教員68.0%)	前年度同様、全般に低い状況である(高校生71.2%、高校保護者67.9%、教員55.3%)。場所の狭さは現状では狭いのは明確で、生徒の記述にも指摘が多い。教員も現状の広さでは十分と認識されていない。抜本的な改善が必要である。食堂前のテラスなどの設置で少しは改善されることに期待する。(△)
	(2) 外部環境への対応	ウ. 通学路の保守をはじめ、災害や不審者から生徒の安全を守るためのさらなる努力を重ねたい。	ウ. 「災害や不審者から生徒を守れるか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→中学生78.7%、高校生79.1%、中学保護者81.9%、高校保護者84.3%、教員70.2%)	中学生において今年度88.0%と昨年度より9ポイント強上昇。中学保護者で88.5%、高校保護者で89.4%と上昇。中学生・保護者においてセキュリティ面での信頼が高まっている。一方、高校生で今年度72.9%と下降し、昨年度同様80%を下回っている。安全安心面でのさらなる改善に向けて課題を負っている。(△)
		(3) 情報の共有化と発信力の促進	エ. 保護者との連絡を密に行うことを通じて、生徒の学内外における状況を的確に把握し、健全な成長を促す環境形成を図りたい。	エ. 「家庭への連絡は適切に行われている」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→中学生87.4%、高校生84.2%、中学保護者85.0%、高校保護者85.4%、教員95.7%)
	オ. ホームページ等を通じた発信を強化するとともに、生徒たち自身への訴求力もあるような発信内容の作成を行なって、学内の活性化がさらに図れるように工夫を施したい。		オ. 「ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→中学生80.4%、高校生66.8%、中学保護者92.5%、高校保護者84.4%、教員68.1%)	中学生では86.4%と昨年度より上昇、中学保護者では87.6%と下降しているものの、高校保護者においては90.4%に上昇と教育内容に関する学校の取り組みや学園生活の様子について発信に高い評価をいただいている。一方、教員69.7%、高校生66.2%と80%には届かない。両対象者における評価の向上を期して発信のあり方の工夫が求められる。(△)